青森市男女共同参画情報紙
―性別・世代・時代を超えて―

アンジュールはフランス語で「ある日」という意味。一人ひとりの「ある日」を紡いでいきたいという願いを込めた情報紙です。

Un jour アンジュール

▲ワーク･ライフ･バランスセミナーⅡ -in 問屋町-　（平成 27 年 2 月 26 日(木)17 時 30 分～ 青森総合卸センター会議室にて）
（写真左から、NPO 法人あおもり男女共同参画をすすめる会理事長 千田晶子さん、㈱エール・キャリアスタッフ代表取締役 田中正子さん
㈱伸和産業代表取締役社長 太田雄三さん、㈱きものセンター取締役副社長 足立和江さん）

「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで
あなたを大切に思う

性別を超え
世代を超え
時代を超え
人と協調し　人を信頼できる
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして
青森はここに「男女共同参画都市」を宣言します

平成８年 10 月 22 日　青森市

「企業・事業所にとってのワーク･ライフ･バランスとは？今できることから実践！」

青森市は、男女共同参画社会の実現に向け、ワーク･ライフ･バランスの普及促進に努めています。男女が共に働きやすい職場づくりのためのワーク・ライフ・バランスの実践は、企業にとっても重要であります。セミナーでは、ワーク・ライフ・バランスを実践している事業所の取組み例と、これから取組もうとしている事業所が抱える課題やワーク･ライフ･バランスの必要性などについて、経営者たちが座談会形式で意見交換しながら、参加者の皆さんと一緒に考えてみました。

セミナーの中で、経営者の立場から、働いている時間もプライベートの時間も、どちらも充実している方が、従業員が長く働き続けられ、職場にとって成果があがることが話されました。

〈ワーク・ライフ・バランスの取組み例〉

○正社員が出産を機に退職したのち、子育て期はパートとして、子育て終了後は正社員として職場復帰をしている（㈱きものセンター）

○社員が子どもの病気など急用で休む場合は、仕事の代わりをみんながお互い様の精神で助け合っている（㈱エール・キャリアスタッフ）

○「誰でも何でもできる体制づくり」として、社員が日ごろの仕事で気づいたことなどを紙に書き提案する「職員提案制度」を実施（㈱伸和産業）

2015.3　No.46

ニュースの目

職場でのマタハラ 2割が経験

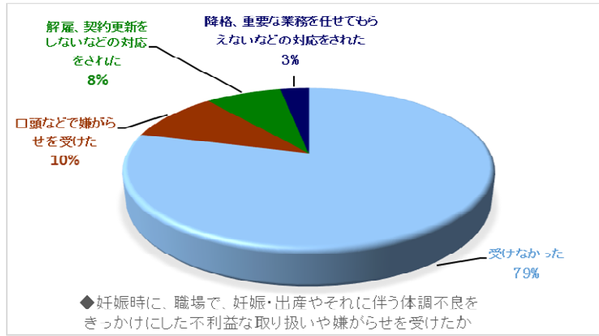
妊娠しながら働いている女性の労働環境を把握するため、日本労働組合総連合会（連合）は、平成27年1月26日～2月2日、全国の20～49歳の女性千人を対象にインターネットにより調査を実施し、回答を集計しました。

働きながら妊娠した経験がある女性の21％が、妊娠時に、職場で、妊娠・出産やそれに伴う体調不良をきっかけにした不利益な取り扱いや嫌がらせなど何らかの「マタニティーハラスメント」（マタハラ）を受けたことがあるとの調査結果をまとめました。

妊娠時に、職場で妊娠・出産やそれに伴う体調不良をきっかけにした不利益な取り扱いや嫌がらせを受けたか聞いたところ、「受けなかった」が79％で最も多かったが、「口頭などで嫌がらせを受けた」が10％、「解雇、契約更新をしないなどの対応をされた」が8％、「降格、重要な業務を任せてもらえないなどの対応をされた」が3％で、マタハラを受けた人は5人に1人の割合となりました。（連合調べ）

マタハラは単に女性だけの問題ではなく、まずは職場の理解が必要なのではないでしょうか。

あらゆる人が安心して働ける職場の環境づくりが重要です。



◆妊娠時に、職場で、妊娠・出産やそれに伴う体調不良をきっかけにした不利益な取り扱いや嫌がらせを受けたか

アンジュール VIEW（びゅう）

ＤＶ被害相談件数過去最悪

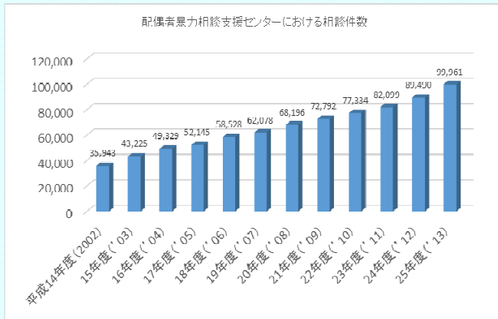
ドメスティック・バイオレンス（DV）は重大な「人権侵害」です。DVには、様々な形態があり、身体的暴力のほか、「何を言っても長期間無視する」などの精神的暴力、「家に生活費を入れない」などの経済的暴力、そのほか性的暴力や社会的暴力があります。どのような暴力でも決して許されるものではありません。

内閣府男女共同参画局では、平成 25 年 4 月 1 日～26 年 3 月 31 日までの、全国の配偶者暴力相談支援センター 238 か所における配偶者からの暴力が関係する相談件数等を集計しました。

全国の相談件数は、総数 99,961 件に上り、その内訳は女性 98,384 件、男性 1,577 件で、女性の相談件数がとても多く深刻な問題となっています。この数値は、認知している件数のみであり、相談していない場合や相談できない場合などを含めるとさらに増えると考えられます。

DVは個人的問題とみなされがちですが、決して個人的な問題ではなく、社会における男女の固定的性別役割分担意識や経済力の格差など社会構造の問題があると考えられます。

市では、DVの根絶に向け、DVについての正しい理解の促進を図るとともに、予防啓発に取り組んでいます。



（資料出所:内閣府調べ）

＜発行＞
青森市市民生活部市民協働推進課
男女共同参画室
〒030-8555　青森市中央 1-22-5
☎　017(734)2296　FAX　017(734)5232
＜編集スタッフ＞
小野寺圭子（ネットワーク A･L）、川村あき子（NPO 法人ウィメンズネット青森）、木村亜希・中崎良次（NPO 法人あおもり男女共同参画をすすめる会）

転載ご希望の場合はご連絡ください。

●女性の悩み相談カダール相談室●

パートナーからの暴力の悩み、自分自身の生き方や家庭のことでの相談など、女性相談員が応じます（面接相談・電話相談）。
ひとりで悩まず、ご相談ください。
【時間】休館日（毎月第 2 水曜日）を除く毎日 9：00～22：00
【場所】青森市男女共同参画プラザ「カダール」　※お話を傾聴するため、事前に相談日時等についてご相談ください。
【お問合せ】☎017-776-8858
（休館日を除く 9：30～21：00 受付）

・・・青森市の男女共同参画拠点施設・・・
＊青森市男女共同参画プラザ「カダール」
（青森市新町 1-3-7 アウガ 5・6Ｆ）
【開館時間】　9：00～22：00
【休館日】　毎月第 2 水曜日
【電話】　017（776）8800
【FAX】　017（776）8828
＊青森市働く女性の家「アコール」
（青森市勝田 1-1-2）
【開館時間】　9：00～22：00
【休館日】　毎月第 2 日曜日
【電話/FAX】　017（723）1700

特集

社会人デビューを前に！ 大学生の考える男女共同参画！！

青森市では21世紀に向けての女性対策への積極的な取組みと、男女共同参画社会の形成を目指すため　おおもり女性プラン21」を策定し、今年で20年が経ちました。　※現在は　青森市男女共同参画プラン」）

20年前も今も、男性、女性が、職場・家庭・地域などあらゆる分野で活躍できる社会が求められています。特に職場において女性の政策・方針決定過程への参画が進み多様な人材が活躍することによって、経済活動の創造性が増し生産性が向上されるとともに、様々な状況に置かれた女性が、自らの希望を実現して輝くことにより　女性の力」が十分に発揮され、社会の活性化につながると期待されています。

今号の特集では、大学生の女性おふたりに、今とこれからの　男女共同参画」について、お話を伺いました。

◀ 永澤　佳子さん
青森公立大学３年生
経営経済学部　地域みらい学科

工藤　佳那子さん ▶
青森公立大学３年生
経営経済学部　地域みらい学科

『男は仕事、女は家庭』という考え方について

（永澤）自分たち世代は、男子学生も含め、男は仕事、女は家庭とは考えていないと思います。景気も良くないから、夫婦２人でないと家計を支えられないと思っているし、一緒に仕事をして仕事と家計をマッチさせていく方が意欲を感じます。

（工藤）家事は身代わりがきくけど、出産だけは女性でないとできません。出産はいいことなのにネガティブな要素がたくさんあるし、リスクがあるから少子化になるのは当たりまえかもしれません。これからは出産が億劫にならないような社会になってほしいです。

男女共同参画について

（永澤）母が専業主婦ということもあり、父からは、女が一人で生きていくなら手に職をつけた方がいいと言われていました。弟がいますが、姉弟で言われたことが違うから、男性社会の中で働いていくのは大変なんだろうと感じています。

姉弟同士で、やることや言われることに違いがあっても、幼い頃は疑問に感じなかったが、社会にも職場体験などで出るようになった今、やっと感じてきています。

小学校や中学校のうちから、男女共同参画について授業などに取り入れると無意識に浸透してくるのでは。

身近なところから、例えば、料理の手伝いは女の子にだけというのではなく、男の子にも手伝わせるとかが必要だと思います。

今後の男女共同参画に望むこと

（工藤）男女共同参画という言葉だけでなく、知識として知れば思いも強くなると思います。議論の場をもっと増やし、みんなの男女共同参画への意識が高くなればいいと思います。

（永澤）女性が困っている過程を、男性も一緒に知っていて欲しい。なんで困っているのかを男女が一緒に共有できる環境が理想です。

働き方について

（工藤）女性が働きやすい環境づくりが大事だと思います。女性が社会進出すると犠牲を伴うのが現実。妊娠・退職・出産で終わるのではなく、出産後働き続けられるような社会の仕組みが必要だと思います。

復帰する前の状況にすんなり戻れるような、基本的な仕組みをつくってほしいです。都会の意識の高い会社でしか進んでいないような気がします。

（永澤）子どもが欲しいけど、職場体験の中で、育児休暇を取ると、他の人に迷惑が掛かると言われていました。特に、休まれた方がそのような言葉を言うので、休みづらい雰囲気が浸透しています。周りの理解が必要です。

『あおもり女性プラン21』策定から20年

国際婦人年　昭和 47 年の第 27 回国連総会において女性の地位向上のため世界規模の行動を行うべきことが提唱され、昭和 50 年を国際婦人年と決定。昭和 51 年～60 年までの 10 年間を「国連婦人の十年」とした。

平成７年	『あおもり女性プラン２１』を策定
平成８年	青森市女性情報紙「アンジュール」を創刊 （※平成 15 年より青森市男女共同参画情報紙として改編） 男女共同参画都市青森宣言（全国８番目、東北２番目）
平成９年	女性による模擬市議会開催 働く女性の家（アコール）にて男女共同参画都市宣言記念モニュメント除幕
平成 10 年	全国男女共同参画宣言都市サミットを開催（全国３都市目）
平成 13 年	男女共同参画プラザ（カダール）を設置
平成 14 年	『男女共同参画プランあおもり』を策定 日本女性会議２００２あおもりを開催
平成 16 年	『なみおか男女共同参画プラン』を策定
平成 24 年	『青森市男女共同参画プラン』を策定
平成 25 年	『男女共同参画都市あおもり』シンボルマークを設定 小学６年生版『男女共同参画子ども向け啓発小冊子』を作成
平成 26 年	中学３年生版『男女共同参画中学生向け啓発小冊子』を作成
平成 27 年	

今から 20 年前、青森市では「あおもり女性プラン 21」を策定しました。翌年このプランに基づき、青森市女性情報紙「アンジュール」を創刊し、今号で 46 号目の発行となりました。この 20 年間では、「男女共同参画都市」宣言や、「男女共同参画プラザ」を設置するなど、様々な施策を展開してきました。

現在は「青森市男女共同参画プラン」と名称が変わりましたが、男女共同参画を取り巻く社会情勢の変化等に柔軟に対応しながら、本市における男女共同参画社会の実現を引き続き図っているところです。

取材時の様子

市では、子どもの頃から男女共同参画への理解を促進する必要があることから、前年度は小学６年生版、今年度は中学３年生版男女共同参画啓発小冊子を作成し、子どもに対する男女共同参画の意識啓発を図っています。

次代を担う若者が男女共同参画について考え、話す機会が増えることで、今後の男女共同参画社会の形成に繋がっていくのではないでしょうか。